

2018年12月期 第2四半期 決算説明会 質疑応答概要

■ 受注状況について

Q1. 放電加工機の2018年1-6月の受注台数が前年同期に比べて減少しています。

どのような要因が考えられますか？

A1. 例年中国において春節休暇明けに受注台数が伸び、夏から秋頃に減速する傾向があります。昨年は6月以降受注が減少しましたが、今年は1ヵ月早い5月頃から減少基調が見られており少し警戒感を持っています。

要因としては、スマートフォン向けの需要に一服感が見られていること、また主要部品の供給不足により一部製品の納期が長期化したことにより失注したこと等が挙げられます。

<参考> 放電加工機の受注台数推移（月次）につきましては決算説明会資料（P.18）、
地域別放電加工機の受注台数推移（四半期ベース）につきましては補足説明資料をご参照下さい。
https://www.sodick.co.jp/ir/pdf/02/180817_meeting.pdf
https://www.sodick.co.jp/ir/pdf/02/180817_meeting_add.pdf

Q2. 部品の供給不足による失注はどれぐらい影響がありましたか？また状況は改善していますか？

A2. 大口案件の失注はなく、個別の取引での失注が数十件ございました。部品の供給状況につきましては、一部特殊なものを除き、状況は改善傾向にあります。また工場間での生産調整を行い、納期の短縮化を図っています。

Q3. 6月度の業界統計では、小型の射出成形機の需要が落ち込んでいます。

御社の射出成形機の受注状況はいかがですか？

A3. 1-3月は春節休暇の影響などもあり受注が伸び悩みましたが、4-6月は若干取り戻しており、前年同期で比べても微増で推移しています。

■ 今後の見通しについて

Q4. 放電加工機の受注の見通しについて、堅調な水準はどれぐらいの台数をイメージしていますか？

A4. 堅調な水準は時期によって異なりますが、貿易摩擦などにより需要が大きく落ち込まなければ、例年受注が減少する夏場以降の時期では、月次の受注は300台程度あれば堅調な水準だと認識しています。

Q5. 工作機械事業の利益率が上振れて進捗しています。通期の見通しについて教えてください。

A5. 上期については生産性向上等により利益率が上振れて進捗していますが、下期にかけてアメリカの新オフィス、加賀事業所の物流センター、マルチファクトリーなどの減価償却費が増加していくことが見込まれています。

Q6. マルチファクトリーが完成すると、どの製品の生産能力が増加しますか？

A6. マルチファクトリーは、事業環境や市場の変化に柔軟に対応できる工場とし、放電加工機、マシンングセンタ、金属3Dプリンタ、射出成形機などその時に需要の高い製品を作っていきます。また、現在福井工場にて生産している放電加工機の高精度機種の新製品の移管を予定しています。金属3Dプリンタについても、量産金型で実績が積み上がっており、お客様のニーズに今まで以上に対応できるようになっていることから、増産についても検討していきたいと考えております。

Q7. 今後の投資スタンスについて教えてください。生産能力を更に増強していく考えはありますか？

A7. 新工場の建設などは現在検討していませんが、全体として生産能力の増強を図っていく必要があると考えています。例えば、食品機械事業は受注が好調に推移しており、工場の拡張を進めているほか、中国での生産増強も検討しています。また、為替の動向や市場環境の変化に柔軟に対応できるような生産体制の再構築を進めていく必要があると考えています。